

Vol. 212 君津元気企業と市長懇談会から
—お前は馬鹿じゃねえかと言われて— (平成 23 年 7 月 25 日)

先日、野村工業部会長主催で君津元気企業の会員と鈴木市長、稲村経済部長等関係者との懇談会が開かれ、君津元気企業の方々からは「夢一朝にしてならずの先見性、ご苦労、経験、夢」が語られ、市長さんからは「君津市経済界の良きリーダーとして一層のご活躍を期待…」と和やかに有意義な懇談会でありました。

その懇談会の中で、若い一人経営者Mさんが母から引き継いだ店はこのままだと衰退すると思い、地域社会と共に生きる奉仕をと日夜努力したところ、同業者達から「お前は馬鹿じゃねえか！」と言われたが…と言う一言が私の胸に強く残り、この一文を書くことになりました。

私は京葉工業地帯造成によって海苔養殖業と貝類問屋の家業を失いました。貝類の輸入を韓国に求めて、昭和 39 年、弟と韓国へ渡り仁川、麗水、木浦、釜山と一カ月余り現地調査と指導によって無尽蔵と思われる蛤漁場を発見して大喜びをしたのですが、なお朝鮮戦争によって疲弊した韓国の輸送能力、衛生管理では生鮮魚介類の輸入は無理だと宝の山を目前にして断念致しました。帰国直後、日本冷蔵から学校給食へ冷凍食品の販売を勧められるままに始めました。これまた未知の世界でしたので、不眠不休、悪戦苦闘すれども報われずの毎日でした。

当時は木更津を中心に老舗、大問屋がまだまだ元気盛んな時でしたから尚更でありました。

私は店舗は持たないで産地、メーカーから直接仕入れ、御用聞き直納方式に徹底して、北は北海道の雄武、紋別、岩見沢からトウモロコシや野菜、鮭、帆立、カニを買い付け、三陸山田湾からはイカ、塩釜からは竹輪、さつまあげ、マグロは焼津、冷凍ミカンが熊本からと妻と 2 人で全国を飛び歩きました。

現地へ足を運ぶ面白さは産地では切り捨てられ、牛や鶏の餌となっているものを商品として再生化する喜びと高い収益性がありました。これらの大量の品をどう販売するかの大きな課題でした。南房総だけでは人口が少ないので、人口の多い松戸、柏、千葉等の北総地帯へ御用聞きのエリアを広げる事でしたが、人も時間も足りないので、買い付けた商品、価格表を葉書大の富士食品ニュースとして納品書や請求書に添付したりして補いました。

この頃は推奨品やその価格を同業者に知られる事を極度に嫌った業界でしたから「あいつは馬鹿じゃねえか！素人は困ったもんだ」と悪評されました。

しかし、それから間もなく私のやり方がいつの間にか本流になっておりました。やがて千葉県におもしろい会社があるからと同業者が見学に来るようになりました。

大震災、原発災害と多難な時代をどう生き残るかを考える時「馬鹿じゃねえか！！」と言われても、自らの信念を大切にされて乗り越えて頂きたい。君津元気企業の皆様には今後一層の発展を期待すると共に、これまでの経験を君津の産業界のリーダーとして是非活かして沢山の良き仲間達、後継者を育てる役目をお願いしたい。

～8月7日は君津市民ふれあい祭りです！皆さんお誘い合わせてご参加下さい。～

.....

※8月9日(火)放送「開運！なんでも鑑定団 in 君津」テレビ東京夜 8:54 ～に秋元会頭がご出演致します。是非ともご覧下さい。